

読賣新聞

遺伝子検査 治療指標に

病院の実力

*和歌山編80

後、放射線を照射する「温存手術」が行われる。しこきる場合もある。

摘した後、同時に乳房を再建する治療を選ぶ患者が増えている。一覧表には「同時再建手術件数」と「温存率(全手術に対する温存手術の割合)」を載せた。

近年、導入が進んでいるのが、がん細胞の遺伝子で再発リスクや薬物療法の効果などを調べる検査だ。代表的なのは「オンコタイプDX」や「マンマプリント」と呼ばれる検査方法で、手術後の抗がん剤治療が必要か、などを調べる指標になる。

ただ、保険がきかず、約40万円かかるのが課題で、希望者のみに行う病院が多い。

乳がんは、かなり進行しないと体調不良などの症状が現れにくいため、しこりに気付いても放置する方がいらっしやいます。しかし、がんが大きくなるほど転移する危険性は高まり、治療もつらくなります。早期に治療すれば、発症前と同じような生活ができます。40歳になったら2年に一度は検診を受け、早期発見に努めてください。

今回の「病院の実力」では、乳がんを取り上げる。年間8万人以上が患い、40〜50歳代の患者が最も多い。一覧表には、2013年に手術の実績がある医療機関を掲載した。

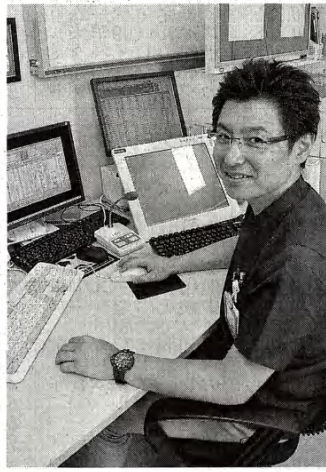
手術は、乳房温存手術と全摘手術がある。しこりの大きさが3センチ以下で多発していなければ、周辺組織を1〜2センチ含めて部分切除

*全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。

紀和プレストセンター長 梅村 定司医師に聞く

患者会やサロン 闘病ケア

女性が多く罹患する乳がんの最新治療法などについて、橋本市岸上の紀和プレストセンター長で、乳腺専門医の梅村定司医師(48)に尋ねた。



乳がんの早期発見、治療の大切さについて話す梅村医師(橋本市岸上の紀和プレストセンター)

乳がんは、乳腺にできる悪性の腫瘍で、30歳代でも発症しますが、ピークは40歳代後半です。女性にできるがんの中で最も罹患患者数が多い、年間約8万人が発症しています。

がんが進行すると、しこりのほか、乳房の皮膚の引きつれや乳頭のただれなどの症状が出ます。診断は、視触診とマンモグラフィ、乳房超音波(エコー)で行い、異常があれば細い針を刺して細胞をとる細胞診か、やや太い針を刺して組織をとる組織診をして確定診断します。この時、がんの増殖能力のほか、ホルモン治療や、がん細胞に特異的に作用する薬を用いる分子標的治療が効果的かどうかも調べ、治療方針を決めます。

当院では乳房切除術後、形成外科と連携し自分の体の組織か人工物(シリコンインプラント)で乳房を再建することもできます。乳房と同時にわきのリンパ節も切除した場合、腕が腫れるリンパ浮腫になりやすいため、当院では、リンパ浮腫外来を設けているほか、検診から治療まで同じ主治医が診ることで、患者さんの闘病を支えています。

乳がんになると、長い間、再発の恐怖を感じる方が少なくありません。心をケアすることは重要で、乳がん患者の「先輩」に悩みを相談したり、闘病中の仲間と話せる患者会やサロンに参加したりして、自分らしい生き方を見つけてもらうようしています。

乳がん

病院の実力「乳がん」

医療機関別2013年治療実績と検査体制(読売新聞調べ)

医療機関名	全手術件数(件)	同時再建手術(件)	温存率(%)	再発リスク検査(実施の場合は○)
都道府県				
大阪府				
大阪府				
奈良県				
和歌山県				

「国・」は国立病院機構。「セ」は再発リスク検査は調査時点(2014年2〜6月)の実施状況で、HER2やホルモン受容体の有無を調べる検査は含まない。

当院では患者さんの希望により「オンコタイプDX」などががん細胞の遺伝子を調べて抗がん剤治療の効果の有無を判定する最新検査も導入しています。例えば、抗がん剤治療は卵巣にダメージを与え、自然妊娠の確率を下げる場合があります。この検査で不要な投与を避けられる可能性があります。

乳がんになると、長い間、再発の恐怖を感じる方が少なくありません。心をケアすることは重要で、乳がん患者の「先輩」に悩みを相談したり、闘病中の仲間と話せる患者会やサロンに参加したりして、自分らしい生き方を見つけてもらうようしています。